



会長	小井田和哉	青少年奉仕	石橋 信雄
副会長	村井 達	幹事	深澤 隆
クラブ奉仕		会計	渡辺 孝
会長エレクト	小林 幹夫	会場監督	接待 一雄
職業奉仕	佐々木泰宏	直前会長	道尻 誠助
社会奉仕	橋本八右衛門	副幹事	正部家光彦
国際奉仕	妻神 和憲	会計補佐	紺野 広

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
 事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
 電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
 e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
 http://hachinohe-rotary.org/
 会報・広報委員長 菊地 幹 同副委員長 峯 正一
 同委員 村館 珠樹 同委員 奈良 全洋

国際ロータリーのテーマ — 2021~22 — 八戸ロータリークラブのテーマ

奉仕をしよう みんなの人生を豊かにするために

今できる親睦と奉仕を！

国際ロータリー会長 シェカール・メータ

八戸ロータリークラブ会長 小井田 和 哉

2月 は 平和と紛争予防／紛争解決月間です

————— 第3214回例会 2022.1.26 —————

会長要件 小井田和哉 会長



先週グランドサンピアで新年例会を行いました、参加していただいた皆さんたいへんありがとうございました。昨年末のクリスマス例会に続いて、夜の新年例会が開催できました。懇親がはかられたと思います。

しかしだいたいコロナが広がってきました。青森県でも弘前市を対象に蔓延防止等重点措置が実施されます。この後、臨時で理事役員会を開催し、例会をどうするか、時間を短縮してお弁当を持ち帰っていただくなどについて検討したいと思っています。決まり次第皆さんにご連絡いたします。

入会式

荒谷 達也 (東奥日報社八戸支社長)



菊地幹さんの突然の異動で1月1日付で八戸に任地を選ぶことになりました。12月までは青森ロータリークラブにおり、広報の仕事をしてい

ただいておりますが、突然の異動で向こうの引継ぎが未だに心配です。

わたしは壬寅で今年年男です。暦もちょうど一回りでまた新しい任地での仕事ということになりました。ひじょうにリフレッシュして八戸の皆様との交流も楽しみにして参りました。新入生と同じ気持ちでやりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

正部家淳司 八戸観光開発(株)代表取締役



ゴルフ場の社長ですが、ゴルフはそんなに得意ではなく、楽しくやることをモットーにしています。ロータリーの活動を通じて自分自身も成長していきたいと考えていますので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

幹事報告

◎2月6日に予定していましたカルタ大会は南部会館の使用ができないため、中止とさせていただきます。



◎岩岡隆雄南グループガバナー補佐、菊地IM実行委員会委員長よりお知らせが届いています。2月19日に予定していました南グループIMは、新型コロナウイルス感染拡大による会員の皆さんの健康面と安全面を最優先に配慮して開催を中止します。

委員会報告

親睦・会場委員会

廣岡徹也委員

○ニコニコボックスの報告



・奥様誕生日 平戸昭彦さん
荒谷達也・正部家淳司さん
本日より入会いたしました。
宜しくお願ひいたします。

佐々木泰宏さん 本日の卓話を担当します。宜しくお願ひします。

橋本八右衛門さん しばらくは自宅にて日本酒で晩酌楽しみましょう!!

廣岡徹也・赤澤栄治・奈良全洋 } ニコニコ
村館珠樹・小井田和哉さん } デー

職業奉仕委員会担当例会

「わたしとロータリー職業奉仕について」

佐々木 泰 宏 委員長



わたしはあまり奉仕やボランティアというようなことばに対し、少なからぬ抵抗感が元々ありました。今でこそボランティアということばはけっこう普通に使われるようになりましたが、わたしの若い頃はボランティアということばの意味さえ、耳慣れないことばで、どういふことを言うのかと思っていた記憶があります。あるいは奉仕といひますとキリスト教的なイメージもあって、わたしの生来の怠け癖というものと相まって、そういう抵抗感を感じていたのかなというふうに思っています。

ですから八戸クラブに入会させていただいたときも、やはり奉仕団体に入ったというイメージで、何か自分にはちょっと似合わない。居心地の悪さを感じたというふうに出します。そうした居心地の悪さを解消してくれたのがロータリーの職業奉仕という理念でした。きょうはそのことについて少しお話しさせていただきたいと思ひます。ちょうど今日は新しい方も入会され、ロータリーってどういふところなんだろうなということも恐らく感じておられることと思ひますので、その一端をきょうの話で感じていただければと思ひます。

わたしは入会5年目の2006年に職業奉仕委員長を拝命しました。そのための準備として青森で行われた地区研修会に参加しました。その年の地区目標の1つが「職業倫理の昂揚」というひじょうに厳めしいものでありました。職業奉仕についての研修講師がパストガバナーの三國智造さんで、「ロータリーにおける職業奉仕とは」という表題でお話しされました。そのお話の骨子は、元々ロータリー自体が職業人の集まりから出発したもので、倫理観をもって一生懸命自分の職業にあたること自体が職業奉仕の根幹なのだという内容で、わたしにしてもああ、そうなんだという形でピンときたことを覚えています。改めて何らかの寄付をしたり、特別な奉仕活動をしなくても自分の職業を倫理観をもって一生懸命やる。そのこと自体が奉仕なんだという説明で、ひじょうに分かりやすく、わたしにとってもひじょうに入り込みやすいという感じを覚えました。

その時に「He Profits Most Who Serves Best 最も奉仕する者 最も良く報われる」というロータリーの公式標語についてのお話もありました。その内容はロータリーのキリスト教的職業倫理の精神が果たしてそのまま他国、特にアジアの国々に受け入れられるの

か。そのアジアの中でも少なからぬ儒教思想のある日本、中国、韓国などでは微妙に違うのではないか、等というひじょうに高尚な問題提起があり、ひじょうに盛り上がったのを覚えています。また同じようなことを意味する教えは東洋思想の中にもあって、中国の古い教えである易経にあるそうで、それは「積善の家には必ず余慶あり」ということばだとその場所で学びました。ひじょうにアジア的な言い回しとキリスト教的ヨーロッパ的言い回しと2つのことを対比して覚えたことを思い出します。

元々ロータリーに職業分類という考え方があります。本来はクラブのメンバーになる人は1つの職業に対して1人。職業は重なってはだめだというような決まりが元々あります。わたしが入会させていただいたときにもまだありました。それがここ5年、10年くらいでだいぶ緩くなってきて、1つの職業に5人まで。最近はその垣根もなくなってきているのかもしれませんが。その辺のロータリーの独特の考え方というものの垣根が低くなってきていることも感じます。いずれにしても、ロータリーが職業人を基本として出発しているということを示していることだと思います。

その年の職業奉仕委員会では、7月に大きな行事として八戸クラブ主催で南分区の皆さんに呼びかけて職業奉仕セミナーを開催しました。講師として、当時伊丹ロータリークラブの深川純一バスターガバナーをお迎えしてお話を聞くことができました。深川さんは現在ご存命であれば90才以上の方で、当時全国のロータリーの各地区において職業奉仕についていろんな講演をされている、職業奉仕のエキスパートと言われている方でした。

当時の講演会のテーマも「職業奉仕の核にあるもの」で、そういう内容の話でした。その要旨は、ロータリアンはクラブに対しては自分の職業の代表者である。それからロータリー活動は倫理運動であり、ロータリークラブは道徳を守る人を作るところ。職業奉仕という考え方は他の奉仕団体にはなく、ロータリーならではの特徴である。倫理的(道徳的)

商取引はロータリーの職業奉仕の理念。という内容で、この講演会の内容も春の研修会で聞いた内容をそのまま書きできるような内容で、なるほどなと思いました。

そういったことで、取り立てて寄付だ、ボランティアだと急き立てられなくても、「自分の職業をまっとうにやるのがそのまま奉仕につながる」というロータリーの職業奉仕の考え方というものが根幹にあるということです。最近トレンドになっている渋沢栄一さんも、「商売をするうえで重要なのは道徳心だ。競争はしても道徳は守れ」ということをおっしゃっているようです。このロータリー職業奉仕の理念はわれわれ仕事をもって、そこに一生懸命やっている人間としてはすごく入り込みやすい考え方ではないかと思います。

毎月第1週目に唱和していただいている「四つのテスト」についてお話しします。

昨年の道尻年度に四つのテストの額を皆さんにお配りしました。同時にその成り立ちも一緒に配布されました。改めて成り立ちを簡単にご紹介したいと思います。

「四つのテスト」は1932年大恐慌のさ中にシカゴロータリークラブの会員で、後に国際ロータリー会長を務めたハーバードJ.テラーによって考案されたものです。彼は大不況の中で莫大な借金を抱え、倒産の危機に瀕していたクラブアルミニウム社という調理器具メーカーの再建を引き受けることになり、この状況から脱出して会社を再建するためには、合理的な指標がどうしても必要だと考えた。従業員が正しい考え方をもって、正しい行動をすれば会社全体の信用が高まるに違いない。社員全員が簡単に覚えられて、自分の回りのすべての人たちに対して考えたり、言ったり、行動したりするときに応用できる指標があればいいなと考えて、この四つのテストを考案したということです。つまり会社再生の第一歩として、会社の全従業員が宗教、人種にとらわれず使えるような、仕事における倫理上の尺度というものを考えた、ということです。

この四つのテストは簡単なことばではあり

ましたが、クラブアルミニウム社の苦境期のあらゆる決定を下すための判断基準となった。例えば、会社の広告から美辞麗句や誇大な表現を無くすように見直した。あるいはライバル社への非難だったり、悪口の類など、そういったことの撤廃なども行ったということです。その結果、取引先や従業員の中に信頼と好意の雰囲気自然に育まれていき、業績が好転していった。結果、わずか数年のうちに40万ドル以上あった負債は利子とともに完済され、その後、会社は順調に成長を遂げ、100万ドル以上の配当をし、200万ドル以上の資産を持つまでになった。

ここでわたしが何を言いたいかというと、四つのテストは実社会において実際に有効に使われて、現実成果を上げた実例ですということです。そのことは同じロータリアンの中にあり、皆さん職業人ですからこれは使えるということに瞬間に広がっていったということです。この四つのテストは規則でも誓約でもなく、あくまで自己評価あるいは反省のための基準です。ですからこれを宣誓して、この通り何かをやるということではなく、本当に自分の職業に対して行動しているのかということ唱和するたびに自己反省するような内容となっています。

そういう道徳的な解釈でもあるわけですが、それに対して別な解釈もあるようです。ネットの中で見つけたのでご参考までにご紹介します。

「四つのテストの新しい解釈：現行の四つのテストは東京クラブの本田親男氏の翻訳によるもので、1954年以来、日本人ロータリアンが座右の銘として親しんだ名訳ですが、その一方でハーバード・テラーがこのフレーズを作った意図が必ずしも翻訳に反映されているか否かについて疑念を抱く人も多いようです。（中略）まず最初に考えなければならないことは、この四つのテストは決して事業の倫理基準や商道徳を高めることを目的に作られたものではなく、倒産の危機に瀕していた調理器具メーカーを再建するために作られた、極めて現実的な基準だったということで

す。すなわち四つのテストというのは商取引きをする当事者同士が納得ずくで取引きする基準というものを示したもので、学校や駅に貼り出したりして日常生活に適用するようなものではありません。それではそれぞれについてみていきましょう。

1. Is it the TRUTH? 真実かどうか

これは商取引きにおいて、商品の品質、納期、契約条件などに嘘、偽りがいないかどうかはひじょうに大切な基準です。真実というのは人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とはその事実があったのか、なかったのかの二者択一を迫るデジタル的判定ですから、ここでは「真実かどうか」ということばを用いるべきでしょう。

2. Is it FAIR to all concerned? みんなに公平か

これはfair とall concerned ということばの翻訳に問題があります。fairは公平ではなく公正と訳すべきでしょう。all concerned はallだけが訳されており、肝心のconcernedが省略されています。冒頭に述べたように、四つのテストは商取引きの基準として定めた文書ですから、このconcerned（関りのある人、関係する人）とは取引先のことを意味することは明白です。従ってこのフレーズは「全ての取引先に対して公正か」ということを意味します。

3. Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS? 好意と友情を深めるか

goodwillは単なる好意や善意を表すことばではなく、商売上の信用や評判を表すとともに、店の暖簾や取引先を表します。すなわちその商取引きが店の信用を高めると同時により良い人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。従って、「信用を高め、取引先を増やすか」というふうに訳すべきです。

4. Will it be BENEFICIAL to all concerned? みんなのためになるかどうか

benefitとは儲けそのものを表すことばです。商取引きにおいて適正な利潤を追求することは当然なことであり、決して恥ずべきこ

とではありません。ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とはいえません。その商取引によってすべての取引先が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。ですからここは「すべての取引先に利益をもたらすか」と訳すべきでしょう。

かなり現実的な訳になっています。英語をそのまま文字通り訳すとそういう意味になるということです。

最後に東京浅草ロータリークラブで用いている「職業奉仕12章」をご紹介します。

- 1：自分の職業に誇りを持つことから職業奉仕は始まる
- 2：天与の職業を愛情をもって育てることは職業奉仕だ
- 3：どんな仕事でも有用で、それを継続することは職業奉仕だ
- 4：事業の経営に最善の努力をすることこそ職業奉仕だ
- 5：社員教育に熱意を注ぐのは立派な職業奉仕だ

- 6：社員の福祉を図り、幸福を願うことは職業奉仕だ
- 7：業界の発展のために力を尽くすのは職業奉仕だ
- 8：職業倫理を高めることは職業奉仕だ
- 9：常に相手の身になって共存共栄を図ることは職業奉仕だ
- 10：自分の職業の水準と品位を高める努力は職業奉仕だ
- 11：例会で多くの人と職業上の理解を深めることは職業奉仕だ
- 12：売り手よし、買い手よし、世間よしは職業奉仕だ

以上の12章です。ロータリーの友の今月号にも「コロナ禍におけるわたしの職業奉仕」ということで、いろんな方々の奉仕活動が紹介されています。わたしは今日ここで言いたいのは、「職業奉仕はふだんから皆さんがふつうに、そして一生懸命やっていることそのものが職業奉仕に通じる。」ということ強調して、きょうの卓話とさせていただきます。

出 席 報 告						出席委員会	
第3213回例会（1月19日）				第3211回例会（1月5日）			
出席率		100%		出席率		58.3%	
総会員数		名		出席数		名	
出席義務会員		名		出席義務会員		名	
出席免除会員		名		出席免除会員		名	
欠席数		名		欠席数		名	
				修正出席率		61.7%	
				メイクアップした人数		2名	
				欠席数		22名	

出 席 報 告						出席委員会	
第3214回例会（1月26日）				第3212回例会（1月12日）			
出席率		61.3%		出席率		66.7%	
総会員数		62名		出席数		38名	
出席義務会員		60名		出席義務会員		58名	
出席免除会員		2名		出席免除会員		2名	
欠席数		24名		欠席数		19名	
				修正出席率		68.3%	
				メイクアップした人数		1名	
				欠席数		19名	